

3号棟問題
特報

王子五丁目団地
自治会会報

第13号

1979年10月21日

王子五丁目団地自治会

編集・自治会広報部

発行責任者・石井利弘

5-710 電(912) 4034

区長が神谷堀を突進

王一小学児童クラブは神谷堀に設置

区長、自治会との会談で決断「反省」を表明

三号棟公共施設予定地に王子第一小学校の児童保育クラブを建設する問題は、十月十五日、小林北区長が団地自治会の石井会長、井上副会長との会談で「この間の区のやり方に何か欠けるところがなかったか、反省する。同クラブは神谷堀埋立地に設置したい」と計画の根本的な変更を表明したことで基本的に解決しました。この会談内容について、自治会常任委員会は十六日、次の声明を発表しました。(会談経過と区長回答内容は二面に)



小林区長(手前中央)と会談する団地自治会の石井会長(正面左)と井上副会長

自治会と北区との間で話し合いが続いてきた、団地三号棟の「公共施設予定地」に王子第一小学校児童保育クラブを建設する問題について、十月十五日、小林北区長と当団地自治会の石井会長、井上副会長の会談が行われた。この会談で小林区長がこれまでの区の計画を変更し王一小学児童クラブは王子五丁目団地三号棟ではなく神谷堀埋立地に建設すると言明したことによって、この問題は基本的に解決することになった。

もともと、児童保育クラブは学区内に設置するのを原則としている。王子一小学児童クラブに入れない児童が続出したため父母が「さくらクラブを拡げる会」をつくり、昨年春から増設運動を続けてきた。その父母たちは自ら学区内に土地を探すためほん走り、昨年春から神谷堀を最速の候補地としてあげ、早期の増設を求めた。

しかし、区はさまざまな理由をあげて神谷堀はもろろん、学区内に土地を求めず、王子五丁目団地三号棟公共施設予定地に四十名定員の児童クラブを二つ作る計画をたて、五十四年度予算に、二千四百七十万円の予算を計上したのである。

自治会は、王一小学児童クラブの実情、その移・増設の必要性について深い理解を当初から示すとともに、団地居住者の高い家賃によって用地費を負担ししかも団地住民の利便を向上させる施設建設を求め続けてきた土地に、区が自治会や居住者との話し合いもせず、一方的に

行き当たりばったりの建設計画を実施しようとする不当性を指摘し、区議会陳情や区理事者との話し合いを求めると、節度を重ねてねばりよく努力を重ねてきた。

これによって王一小学児童クラブは学区内に建設され(当面はプレハブだが近い将来、本建築になる)、また八十名定員へ拡張が実現される。自治会は王一小父母と共に喜びを分かち合うものである。

同時に、三号棟公共施設予定地の利用問題の解決は今後に残された。桜田小学校児童は急増しており児童クラブは来年度には決定的に不足し、増設が必要になる。従来からの住民の願いである多目的のコミュニティ施設の実現も図る必要がある。自治会は団地住民とともにその解決のためにいっそう奮闘する決意である。

小林北区長と王子五丁目
団地自治会との会談の
結果についての声明

また自治会が主張し続けてきた原則を区が全面的に受け入れたものである。これは、区長が自治会に対して「この間の区のやり方に何か欠けていたものがあり反省する」と表明した、その「欠けている」部分をこの間、スジを通して指摘し、民主的な区行政を要求してきた団地住民と「拡げる会」父母の運動ががちとった画期的な成果である。

「三号棟問題での自治会と区との協議の場を設けること」を提案し、小林区長も賛成、企画、建設、児童の三部長を区側の担当者に指名した。これまでの経過の中で自治会は多くのことを学んだが、区としても同様である。その教訓を今後にかし区と団地住民の円滑な関係を確立するために、この協議の場を積極的に活用していきたいと考える。

また、懸案事項であった団地内に公衆便所を設置する問題、公共避難場所指定に関する区と自治会との協議についても区長は積極的な賛成の意を表した。自治会はこれらについても双方の話し合いを進めるよう努力する。

昭和五十四年十月十六日
王子五丁目団地自治会
常任委員会

自治会の主張 区が受け入れる

十月十三日、北区の岡本児童部長より自治会石井会長に対して「十月十五日午前十時より、区長室において小林北区長が自治会代表と会い、三号棟空地の問題について直接お話ししたい」との申し入れがありました。

この申し入れを受け自治会では、同日夜に自治会四役会（会長、副会長、財務部長、事務局長）を開催し、基本方針を再確認したあと、この申し入れを受け入れることを決定。代表として石井会長、井上副会長の二名を出席させるようにしました。

自治会常任委員会では、すでにこの問題について何度も討議し、予想される北区からの申し入れについては、基本的に四役会に一任していたものですが、その決定にもとづいて四役会ではこのような措置をとったものです。

十月十五日午前十時五分、王子五丁目団地自治会代表と北区長との公式会談は、北区長室で始まりました。

自治会側からは、石井会長、



自治会代表に回答する小林区長・区理事者

三号棟公共施設予定地に、王子第一小児童クラブを建設するという北区の計画に対し、自治会は次のような主張をしてまいりました。

1. 王子第一小児童クラブの現状については十分に理解することができ、当面保留されている児童を入園させるためにも王子五丁目団地三号棟空地に、第一小児童を設置することについても反対するものではない。むしろ積極的に受け入れの条件づくりを進めている。
2. しかし、北区の計画には無理がある。第一小の児童は、北本通りを渡らなければならぬ。かなり極めて危険である。
3. 児童クラブは、学区内に建設するという北区の原則からははずれている。
4. 第一小児童については、当面は定数増になるが、桜田小

自治会の主張

の児童急増という条件のなかで二・三年先にはむしろ減員になってしまふ可能性があり、問題の解決にはならない。

5. 王子五丁目団地は、北区民約六千名の住む大居住区だが、公園の土地であるという理由で区の行政が十分にいきわたっていない。また三号棟の空地についても、この費用はすべて団地居住者の家賃に含まれており、居住者負担となっている。こうした現状を北区としてよく理解し、住民の納得のいくよう区政を進めてもらいたい。
6. 以上の点から、当面は三号棟空地に、第一小児童が建設されるとしても、近い将来学区域内に新たに建設し、そちらに移れるよう努力してほしい。また園庭（約一千平方メートル）については、だれでもが使えるよう開放してほしい。

1. 北区としては、児童クラブを学区内に作るという原則をもち、王子第一小児童についても学区内解決をめざしたが、土地がみつからないため、王子五丁目団地内三号棟部分に設置するという計画になった。

2. 王子五丁目団地三号棟部分に設置する計画は、仮設物にこだわっていたが、仮設物（プレハブ）ならば可能であるとの結論に至った。そこで第一小児童クラブは神谷堀に建設するよう計画変更する。
3. 第一小児童は、現在第一小にあるプレハブ（四十名）と赤羽台西小にあるプレハブ（四十名）を移設し、八十名定数とし、早急に工事に入る。埋立地の地盤が固まりしだい本建築をたてる。
4. 王子五丁目団地自治会の学

小林北区長の回答

児童クラブに対する考え方は「かくあるべきである」という点で理解できる。

5. 桜田小の急増についても認識している。三号棟空地については桜田小児童を設置するよう考えている。
6. 三号棟公共施設予定地について、自治会と北区（企画部長、建設部長、児童部長）との間で随時協議をする。
7. その他
団地内に公衆便所の設置、公共避難場所としての受け入れ準備として自治会と区との協議についても必要なことだ。



会談は冒頭、山崎企画部長より「昭和五十四年八月十七日付王子五丁目団地自治会よりの五項目の質問書」に対する区側の回答が示された。この回答は現在までの区の態度を越すものではなかった。

これに対し自治会側は石井会長が、別項「自治会の主張」の内容に添って自治会の立場を説明し、決して「団地エゴ」ではなく基本的には児童クラブ設置について十分な理解を持っていくことを強調した。

次に小林北区長が「これから私の話しは極めて重要な内容のものであり、区長として重大な決断を下した結果の話である」と前置きし、慎重に言葉を

選びながら自治会に対する回答をおこなった。内容は「王子第一小学校児童クラブについては、神谷堀埋立地に建設する」ということを中心にしたもの（別項「小林北区長の回答」参照）であった。

自治会側は、この小林区長の回答に対し「こうした内容であるならば、われわれとしても十分納得できるものであり、区長の決断に敬意を表する」と立場を明らかにすると同時に「第一小の父母にとってはどうか」と質問したところ、区長は「第一小父母にとっても良いことであり、納得してもらえると確信している」と答えた。

自治会と北区の双方は、王子第一小学校児童クラブ建設問題については、基本的に解決したとの認識で一致し、午前十一時二十分會談は終了した。

なお、同日午後三時すぎより開かれた、北区議会厚生委員会の冒頭、議題にはなかったが、

小林区長が発言を求めて、この内容を報告し、厚生委員会はこの内容を全会一致で承諾した。

三号棟問題解決で談話

会長 石井利弘

今年二月、突然北区からもちこまれた「三号棟公共施設予定地に第一小児童クラブ建設」の計画に、最初はとまどいながらも団地住民の利益を守る立場から運動を進めてきました。

第一小の父母の方々と話し合いを持ち、お互いの立場をよく理解しながら運動を進めた結果、双方にとってより良い結論が出せたのではないかと考えています。

北区長も私たちの主張を理解してくれたということは、私たちの主張が正しかったことの証明でもあると思います。今後は公共施設予定地の住民本位の活用めざしががんばります。

会長 井出和子

私たち「拡げる会」は、昨年の春以来「第一小児童クラブ」の増設の運動を進めてきました。私たちの北区議会への請願が採択されて以来、学区内に設置することを前提に土地さがしなどもおこなってまいりましたが、今回私たちの当初の希望どおり神谷堀に八十名定員の児童クラブが設置されることになり、本当に喜んでおります。

王子五丁目団地自治会の皆様には、私たちの現状をよく理解していただき、また今回の解決をみるに至るなかで本当に大変な努力をされたことに対して、心から感謝申し上げます。